

2014.03.01
No.380
(3・4月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

被ばく60年、核なき世界への航海



3月1日、福竜丸につどう

六〇年目をむかえた三月一日は雨模様の空でしたが、新聞、テレビのビキニ六〇年特集や報道もあり、展示館は朝から見学者が多くボランティアによる説明を求めるグループなど、五〇〇人を超える来館者がありました。

午後二時からは、神宮外苑の日本青年館にて「3・1ビキニ・第五福竜丸60 記念のつどい」が開かれ、会場いっぱいの三〇〇人余が参集しました。

つどいは、福竜丸元乗組員の大石又七さんとロンググラップの被ばく者リミヨ・エボンさんのメッセージ映像で開幕。記念演奏は、作曲家・ピアニストの三宅権名さんによる「第五福竜丸の記憶のために」と題したピアノ演奏。バッハのプレリュード、アリア、モーツアルトの幻想曲KV397などが奏でられ、この日のために作曲された「暗い海から」が披露されました。

余韻につつまれる中、つどいの二部は池内了さんによる記念講演（2～5面概要収

録）。「ヒトと地球と空と核」と題してのお話は、科学者と戦争のかかわり、メガトン水爆から原子力発電・メガワットの時代への移行、ニューケリアから自然エネルギー（チャーベナジー）への転換をはかる人類的課題についてたどり、「ビキニ事件をかけて忘れてはならない」と結びました。

講演につづいて各界からの挨拶がありました。マーシャル諸島共和国駐日大使館から

キジナー大使、東京の被爆者の会（東友会）の山田玲子さん、世界平和アピール七人委員会の小沼通二さん、東京都生協連の中村紀子さんが、それぞれ第五福竜丸とのかかわりにふれ核廃絶・平和への願い、取組を紹介しました。

この日、記念出版の『第五福竜丸は航海中—ビキニ水爆事件と被ばく漁船60年の記録』が発行されました。四月には連続市民講座の第一回が開かれるなど、六〇年記念事業はつづきます。（つどいの

写真提供・姫田蘭）



ヒトと地球と空と核

—破壊の科学から人間的な科学へ—

きょうは科学および科学技術に関する「これまでの六〇年、これから六〇年」ということに焦点を定めてお話ししたいと思います。

六〇年前の一九五四年三月一日、水爆ブラーは航空機で運搬できる実用水爆の第一号として開発されました。航行禁止区域外にいたにもかかわらず、第五福竜丸が被ばく、

千隻をこえる日本漁船が汚染魚を捕獲、被災しました。放射能で汚染されたロンゲラップ島では、その後放射能汚染のある島に住民を帰島させるという人体実験のようなことが行われました。

軍事と科学技術

長崎、ビキニ、そして今回の福島、そのような被ばくの歴史の一として、当然重ねあわせ語り継いでいくべきことであるにもかかわらず、公示には被ばくとしては位置づけられていません。私たちはこの出来事を私たちの記憶に常に埋め込まなければならぬと思っています。

軍事と科学技術

国のパワーの源泉をたどると、直接的で最も具体的なのは軍事力です。その軍事を支えるという意味で間接的には経済力があり、さらにもう一つ奥の背景に知力、科学技術の力があります。軍事・経済にしろ、科学技術が背景において、科学の異様な発達がこの六〇年を支えてきたといえるのではないでしょうか。

これまでの六〇年は「MからMへ」という言葉で示したおり、科学技術の力点が最

初のM(メガトン級)の水爆

戦争への科学者の組織化

初のM（メガトン級）の水爆から次のM（メガキロワット）の原発へと移り変わった時代でした。まずこの六〇年の前半期に軍事力の中心であるメガトン級の爆弾開発が行われました。そしてその異常なる核兵器開発競争がある程度の均衡状態に達した後に、メガキロワットの原発が経済力の支えにシフトし、今日に至っていると言えるでしょう。この流れを変えなければなりません。科学技術が人間の幸福のために使われる「人間の顔をした科学技術」となるには何が必要であるのかを、これから六年で考えていかなければならぬと思います。

それは「NからN」、原子力のN（Nuclear Energy）から脱却して自然エネルギーのN（Natural Energy）への転換、という新たな科学技術の方向です。スローであり、小型であり、分散的であり、多様であるという、今の経済や生産の方式とは対局に位置するスタイルへの転換です。その流れをこれから六年で私たちには創りださねばなりません。

戦争への科学者の組織化

科学技術には必ず良い面と悪い面の二面性があります。その典型が軍事と民生といふ二面性です。科学技術の軍事化は二十世紀初頭から具体的に始まりました。大きな契機は戦争です。個人としての科学者が戦争に協力することは古くからありました。科学者の具体的・組織的な軍事への動員は、第一次世界大戦から始まりました。有名な毒ガス戦争がその代表です。

物理者のフリツ・ハーバーは、窒素を個体に変える空中窒素固定法を考案し農業革命を起こすという功績を残しました。その反面、毒ガスの開発に非常に熱心で、「平和開拓者でなければならない」といえども一兵士であり、爱国主义者でなければならぬ」という言葉を残しています。

戦争というものはそのように科学や科学者を歪ませてしまいます。

さらに第一次世界大戦では歴史上初めて潜水艦や戦車飛行機が戦場に現れました

科学技術には必ず良い面と悪い面の二面性があります。その典型が軍事と民生という二面性です。科学技術の軍事化は二十世紀初頭から具体的に始まりました。大きな契機は戦争です。個人としての科学者が戦争に協力することは古くからありました。科学者の具体的・組織的な軍事への動員は、第一次世界大戦から始まりました。有名な毒ガス戦争がその代表です。

物理者のフリツ・ハーバーは、窒素を個体に変える穴

飛行機は一九〇三年にライト兄弟が発明し、たかだか四〇数メートル飛んだだけでしたが、八年後の一九一一年には既に偵察機が現れました。そして一三年後の一九一六年には爆撃機にまで進化し重い爆弾を背負って飛び立つまでになりました。これは科学者の協力なしには不可能です。

第二次世界大戦はより科学者の動員が徹底して組織的に行われた戦争でした。とくに特殊プロジェクトへの総動員というのがあげられます。その第一が原爆に象徴されるマンハッタン計画です。

科学技術によって様々な兵器が開発される一方、その技術は同時に戦争ではない場面でも活用されています。例えば電波技術はレーダーを生み出し、レーダーから派生した電子レンジは私たちの日用品になっています。このように、軍事目的のためのあらゆる科学技術が、組織的に研究され開発されてきました。それが民生品として重宝され一面だけを見るのは危険なことです。科学の軍事化によつてもたらされた便利さによつ

(3めんからつづく)

術は原爆開発に端を発します。一九四二年のエンリコ・フェルミによるシカゴパイアル原子炉が完成して目処が立ち、その後、核兵器のためのプルトニウム生産のハンフォード原子炉が建造されました。

一九五三年にアイゼンハワーダ統領が「核の平和利用(atoms for peace)」という、核兵器による世界秩序の確保ではなく、「核の平和利用」という形での世界を牛耳る新しい方針を打ち立てます。それ以後、エネルギー源としての原子力利用が具体的に展開していきます。私はこのメガキロワット時代を、「資本主義のポチとなつた科学技術」といつています。まさに科学技術が、積極的に資本主義のために力を添えるという時代です。

日本の原発推進

いま世界には原発を採用している国が二十九カ国あります。原子炉数は約四八〇。計画中、建設中を含めるとほぼ五〇〇基です。日本には五四

機あつた原子炉は、福島第

一原発の六基が廃炉の予定で、現在四八基となっています

ますが、そのうち二三基が

一〇〇万キロワット以上で

スが一番大きく一五六万キロ

ワット、ロシア、韓国、ウ

クライナはどういうわけか

一〇〇万キロワットちょうど

で止めています。いずれにし

ろ、科学技術の莫大な力によ

つてより巨大な原発にどん

どんシフトしていく時代が

一九六〇年代の終わりから現

在まで続いています。

「科学者の頬を札束で叩いてやつた」という中曾根康弘

の逸話が残っていますが、日

本の原子力開発は一九五四

年のウラン235にちなんだ

二億三五〇〇万円という予算

から始まりました。最初の大

型原発は一九七〇年の敦賀第一

原発で、大阪万博に電力を

供給したことで有名です。そ

の後すぐに、美浜や福島第一

が稼働しますが、七〇年代が

日本の原子力開発の最盛期で

した。いま一番新しいのは泊

原発三号機の九一万キロワッ

トで、いまの時代までずっと

続ってきたわけです。

日本の原子力事故はさまざま

あります。九五年に高速増殖炉もんじゅでナトリウム漏

出事故が発生しましたが、こ

れは技術がお粗末な日本の原

子力開発の典型的な事故でした。それによって核燃料サイ

クルの要となるべき高速増殖

炉がほぼ二〇年たった現在も

稼働していません。にもかか

わらずまだ核燃料サイクルの

旗を降ろしません。JCOの

臨界事故(99年)や美浜の原

発蒸気細管破断事故(04年)、

そして福島第一原発のメルト

ダウン事故が発生しました。

二〇〇二年に東電のトラブル

隠しが内部告発で発覚し、東

電の一七基全ての原発がスト

ップしたことを見ればなり

ません。この時に大小全部あ

わせると一〇〇〇近くのトラ

ブル隠しが続いてきたことが

判明、それが集中的に現れた

のが福島事故だったのではな

いかと思います。

原発事故は年に一回

原発事故の確率を計算する

と、かつてはメルトダウンを起こすような過酷事故は

一〇万年に一度といわれていました。しかし、日本で原発が運転を開始してからの三〇年間、ほぼ五〇基が平常運転をしてきました。だからその積算稼働量は一五〇〇年基と

いうことになります。その中で三基がメルトダウンを起

しました。一五〇〇年を三で割ると五〇〇年、つまり一基当たり五〇〇年に一回事故を起こす、五〇〇基の原発があれば毎年事故が起ることになります。今世界に五〇〇基の原発がありますが、これは一年に一回起る状況が具体的にあるということです。日本国内に限つても五〇基あれば一〇年に一度起るという計算です。

実際に三〇年の間平常的に運転し、福島第一原発の三基で起こりました。一〇年に一度の確率通りなのです。そ

の構想がありました。

冷却材喪失事故が起こらない、炉が壊れても冷えてすぐ固まる、放射性廃棄物がウランより少ない、プルトニウムを生産できないなどの利点がいわれます。しかしこれらは、トリウム原子炉を宣伝する人たちの主張で、どこまで具体的に実証されているのかわかりません。また、トリウムは鉱石を取り出すこと事態が厄介で、ほとんど研究されてこなかつたこともあります。

とはいえ、放射性廃棄物が

発の内部をまだ見ることがで

きず、破損箇所もメルトダウ

ンの経過も全くわかつていま

せん。だから安全性が高まつたなんてありえません。原発の再稼働なんてもつての外と

言うべきです。

トリウム原子炉

少しだけトリウム原子炉に

ふれておきます。トリウム232の原子核はウランの三、四倍の資源量とされています。これ

が中性子を吸うとウラン233

という核分裂物質になり、溶

融塩炉というフッ化物として

溶かしたもので炉を動かそう

との構想がありました。

冷却材喪失事故が起こらな

い、炉が壊れても冷えてすぐ

固まる、放射性廃棄物がウラ

ンより少ない、プルトニウム

を生産できないなどの利点が

いわれます。しかしこれらは、

トリウム原子炉を宣伝する人

たちの主張で、どこまで具体

的に実証されているのかわ

かりません。また、トリウムは

鉱石を取り出すこと事態が厄

介で、ほとんど研究されてこ

なかつたこともあります。

とはいえ、放射性廃棄物が

て、大きな悪を見過ごしてはなりません。

殺傷の飛躍的進化

南北戦争（1860年）当

時の大砲は二〇キログラム程の砲弾で、射程距離は一〇キロ、殺傷能力は一発で五人程度でした。第一次世界大戦で二トン爆弾が出現し、爆撃機で運ばれ一〇〇キロ先の五〇人を殺傷可能にしました。

第二次世界大戦になると、

TNT火薬に換算して二万トンの爆発力の原爆が作られました。一気に一万倍の爆発力を示したのです。テニアン島から広島、長崎まで飛行機で四〇〇〇キロを往復飛行し、これが一九六〇年頃には

メガトン時代の最盛期を迎えた一〇〇年のうちに、爆発力は一〇億倍、飛翔距離は一〇〇〇倍、犠牲者は四〇万倍に増えたわけで、爆発力と飛翔距離の破壊能力は、一兆倍にもなりました。

破壊の極致・核爆弾

こうした科学技術による兵器の進化は、科学者の協力なくしてはおこり得ません。火薬一〇〇〇万トン分の爆発力の爆弾のメガトン時代です。これは一九三九年の核分裂発見から、広島・長崎への原爆投下までたった六年で、ビキニ被ばくをもたらした水爆の開発まで一五年足らずでした。ソ連の原爆開発はアメリカに追従する形で、四年遅れで始まりましたが、直ちに水爆の開発にすすみ、史上最大の水爆実験は五〇メガトン（ソ連・1961年）でした。

これらは科学者がひたすら核軍拡に協力した「空しい歴史」でありました。

100年の爆弾の「進化」

時期	爆発力	飛翔距離	犠牲者数
1860	20kg	10km	5人
WW1	2トン	100km	50人
WW2	20kトン	4000km	20万人
1960	20Mトン 10億倍	10000km 1000倍	200万人 40万倍

爆発力×飛翔距離=1兆倍

100年の爆弾の進化は科学者の協力でこそ

一方で一九六三年に大気圏中での核実験を停止するP TT（部分的核実験停止条約）がアメリカ、ソ連、イギリスの三国により結ばれました。

しかし、これは度重なる核実験で十分ノウハウを獲得した後で結ばれたものであり、核独占を目的としているというべきでしょう。

フランス、中国は六八年と六七年に水爆を完成させました。

それを受けるかのように

一九七〇年にN P T（核不拡散条約）が結ばれています。

米ソ英仏中五カ国との核独占体

制を維持するという思惑があつたと言わざるを得ません。

米ソ英仏中五カ国との核独占体

制を維持するという思惑があつたと言わざるを得ません。

条約を検討し直す動きが継続して行われているためむげに否定するわけではありませんが、大国中心の条約であることは否定できません。私たちが求めるべきは、C T B T（包括的核実験停止条約）なので

これまでに核兵器の使用を実際に検討したことが何度もありました。一九五〇年の朝鮮戦争と一九六二年のキューバ危機は、実際にスイッチを押される寸前、一九六八年のベトナム戦争のときも危機でした。事故による偶発的核戦争の危険もありますが、人間の意志による核戦争も起こりえたという恐ろしい時代を私たちは生きてきたのです。核兵器がある限りその危機は消滅していないのです。

核使用の危険

核開発と人体実験

核兵器には必ず人体実験が伴つきました。広島・長崎には戦後、アメリカによつて

A B C C（原爆傷害調査委員会）がつくられ、被爆者の観

段階で一万七三〇〇でした。一九八五年にはなんと六万五〇〇〇でした。一つあたりを五〇〇キロトンと想定すると人類を三度殺せてしま

うほどの核兵器が蓄積されていました。ブルトニウムを飲ませて体内でブルトニウムがどのように移動するかを調べたり、キノコ雲に飛行機で突入したり、がん患者や囚人に対する放射線照射実験など、核世界には累々とした人体実験の例があります。

核実験と人体実験は切り離せないコインの裏表なのであります。科学者はこれを人びとに説明せず加担してきました。しかも人体実験は結果的に多くの人々にとつて有益であったという言い訳がなされま

す。科学者はこれを人びとに説明せず加担してきました。

しかし人体実験は結果的に多くの人々にとつて有益であつたという言い訳がなされます。少数の弱い立場の人びとが踏みにじられるということが極めて当たり前のように行われました。

原子力発電へ

メガトン時代は六〇年代の半ばあたりで、新たなM、つまりメガキロワットの時代に入ります。エネルギー源としての原子力利用です。この技

能はするが治療はしない人体実験のようなことがなされました。核実験の際に風下の人間を動員したり、風下側の住民には一切知らせないということもありました。ブルトニウムを飲ませて体内でブルトニウムがどのように移動するかを調べたり、キノコ雲に飛行機で突入したり、がん患者

（4めんにつづく）

人類が持続するために

- (1) 核兵器の完全廃絶
核戦争の危機は続いている
「第2回核兵器の非人道性」に関する
国際会議(メキシコ、2／13、14)の積み重ね
 - (2) 原発路線からの脱却
これ以上被曝者を出してはならない
脱原発・再稼働反対の声を出し続ける
 - (3) 地上資源文明の構築
小型・分散・多様・地産地消の分権社会を目指す
島唄などからのお宝

比較的少なく、安全性もウラン型より高そうです。だからといってトリウム炉を推奨しようとというわけではなく、核爆弾としてのウランやプルトニウムの開発が先行した結果として、ウラン炉が原子炉の主流になつたという歴史的な事実を押さえておきたいのです。軍事開発が優先された結果のウラン炉なのです。

福島事故を活かすこと

私たちには、福島原発事故から科学技術で可能であっても全てをやつていいというわけではないということを痛烈に学びました。あらゆる人工物には、限界強度（クリフエッジ）が設定されています。クリフエッジは崖、エッジは端ですか

日本は戦後、経済復興は可能であったかというシミュレー
ーションを一度やつてみる必要があると思います。私は可能
だつたと考えています。原発がなければ今のような繁栄も
なかつたとは、とても考えら
れません。

地震や津波の多い日本は不的確であるのは明らかです。原発は一切事故を起こしてはいけないものです。めったに起こらない、殆ど起こらないでこそダメなのです。絶対事故を起こしてはならないもので、それは不可能なのです。そもそも日本に原発は設置すべきではなかつたと思います。

原発とは倫理に反する科学
技術の產物です。一つは過疎

また、放射線被ばくによる人への危険についてですが、ICRPやIAEA、WHOといった国際機関が放射線の限度量を決めていますが、それらは核兵器や原子力利用の推進国が中心になつて作られた国際組織であるということに十分注意しなければなりません。

つまり原発は「押し付け」がなければ行使できない科学技術であり、にも関わらず私たちにはそれを選択してきました。だから私は核エネルギーから脱却すること、「NからNへ」ということを真剣に考えなければならないと思っています。

すのです。そのことを十分知つておく必要があります。

原発という危険物は、いかなる規模の天災も想定していくればなりません。よつて地震や津波の多い日本は不的確であるのは明らかです。原発は一切事故を起こしてはいけないものです。めったに起

らクリフエッジは「崖っぷち」という意味です。だからクリフエッジ、限界強度を少しでも超えると崖から転げ落ちるよう過酷な事故を引き起こすのです。そのことを十分知つておく必要があります。

地に押し付ける。これは沖縄に基地を押し付けていることにも共通します。そして放射性物質を扱うことで作業員に放射能被ばくを押し付けています。採掘から廃棄物処理まであらゆる段階において、作

地上資源活用への挑戦

せん。ここで作られた許容線量や線量限度というのは、現実に人間に対して危険があるという科学的レベルを示しているのではなく、経済的に可能な範囲で許容される量を限度として決めているに過ぎません。

資源の開発をグリーンイノベーションといいます。石油に依存する資源開発から、石油だけではなく、バイオマスなどの地上資源により新たなインベーションが達成可能で起きるのではないか。そのためには技術の転換が必要です。これまでの技術は大型化、集中化、一様化の技術でした。これは地下資源文明の行き着く先であり、大量生産、大量消費、大量廃棄というシステムに適合した技術です。それらは中央集権であり、貧富の拡大であり、資金の短期回収という資本主義の肥大化の現

れというのではなく、今日までに私たちが発見し、発明してきた科学技術の力によつてそれを成し遂げなくてはなりません。ここに私たち人類の知恵が試されていいるのです。

地上資源をいかに有効に使うかということを私たちは学び、発見してきています。地上資源はまだ値段は高いのでですが、私たちの身の丈に合うよう変えていけるか、これが彼らの勝負であると思ひます。

(5めんからづく)れです。これを小型化、分散化、多様化というまつたく対極的な技術に乗り換えることによって地方分権であり、地産地消であり、ほどほどの豊かさという新しい文明形態を私たちが求めるべきではないでしょうか。

核と向き合う人々

人類の持続可能性のため、核兵器の完全廃棄ということは、今までのことです。まだ核戦争の危機は続いて

います。核廃絶への努力、これを日々と積み重ねるしか私たちにはありません。非核国と市民により核兵器保有国を包囲し孤立させ続けていかなければなりません。そうすることことで核兵器の数は減っていきます。

それから原発路線からの脱却です。これ以上被ばく者を出してはいけません。脱原発・再稼働反対の声を出し続けることが重要です。そして私たちが個人として自立しているということがやはり最も

大事なことではないでしょう。地上資源文明の構築を私たちの合言葉にしていきましょう。

最後に、私たちにとり大切なことは、ビキニ事件を決して忘れないことであると思いまます。(いけうち さとる)

プロフィール 天文学者、総合研究大学院大学教授、世界平和アピール七人委員会委員。専門は宇宙論、宇宙物理学、科学と社会。主な著作『疑似科学入门』『禁断の科学』『娘と話す原発ってなに?』ほか多数。

松井一實広島市長

「3・1ビキニ・第五福龍丸60記念のつどい」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

三月一日の核実験被災者記念日が巡ってくる度に、私は毎年マーシャル諸島共和国と国民を代表し、皆様に深い感謝の気持ちを申し上げます。

核実験の被害を受けたビキニとロングラップの人びとは、現在も全土に散り散りに避難生活を送っています。米政府は自國核関連施設跡地の除染に四〇億ドルを投じてい

ます。これを小型化、分散化、多様化といふまつたく対極的な技術に乗り換えることによって地方分権であり、地産地消であり、ほどほどの豊かさという新しい文明形態を私たちが求めるべきではないでしょうか。



つどいでのあいさつと寄せられたメッセージ(一部略)

トム・キジナー
駐日マーシャル大使
マーシャル諸島共和国と国民を代表し、皆様に深い感謝の気持ちを申し上げます。

核実験の被害を受けたビキニとロングラップの人びとは、現在も全土に散り散りに避難生活を送っています。米政府は自國核関連施設跡地の除染に四〇億ドルを投じてい

核兵器廃絶をねがつて

ます。マーシャルの核実験被害については法的にも倫理的にも問題を解決する義務を果たしていません。

三月一日の核実験被災者記念日が巡ってくる度に、私は毎年マーシャル諸島共和国と国民を代表し、皆様に深い感謝の気持ちを申し上げます。

私は、失われたいのちに思いを馳せますが、とりわけ大切な土地を失つたビキニ・エニウェトク・ロングラップ・ウトリック環礁の人びとにとつてはその思いはいつそう強いものです。私たちは故郷、そして心の拠り所を取り戻せずにいるのです。しかし、六〇年前のプラボーの苦しみや悲しみを共有できる友が日本にはいます。同じ悪夢を見た人でなければこの苦しみは理解できません。私たちマーシャル人は核被害を共有するものとして原爆と福島原発事

件に生き抜き、核兵器の非人道性と平和への思いを訴え続けました。その思いを世界の人々が共有し、進むべき道

故の犠牲者や家族と気持ちを一つにしたいと思います。

三月一日は、プラボー実験の犠牲者、困難を生き抜いてきた人、その家族や友人を心に刻む日です。私たちは核と大量破壊兵器のない世界の実現に力を注ぎます。それは今を生きる私たちの責任です。

6

の取組を進めてくださっています。是非とも皆様には「3・1 ビキニ・第五福竜丸60記念のつどい」を機に、今後とも、被爆者の願いに応え、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

田上富久長崎市長

「3・1ビキニ・第五福竜60年記念のつどい」が開催されるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送ります。皆様におかれましては、核なき世界」を実現するため、長年熱心に平和活動に取りんでおられることに深く敬意を表します。

一九四五年八月九日午前11時2分、長崎のまちは一発の原子爆弾により廃墟と化し、二四万人の市民のうち一五万人が傷つき、そのうち七万四千人の方々が命を奪われました。生き残った被爆者は、六八年が経過した現在も

放射線の後障害に苦しんでいます。核兵器による惨禍を二度と繰り返してはならないと、被

爆地は核兵器廃絶を世界に訴え続けてまいりましたが、世界には今も一万七千発以上の核弾頭が存在しています。

現在、国際社会では核兵器の非人道性を焦点とした廃絶への取り組みが続けられており、今年二月、メキシコで開催された「核兵器の人道的影響に関する会議」には、昨年のオスロ会議を上回る146カ国が参加しました。会議で

は、法的拘束力を持つ国際規範では核兵器を非合法化することが「核なき世界」実現への道だと指摘する議長総括が発表されました。皆様と訴え続けてきたことが、このよう

な流れにつながつたものと実感するとともに二〇一五年核不拡散条約（NPT）再検討会議に向け、これまで以上に、

市民社会から核兵器廃絶の機運を高めていく必要があると考

すので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中野弘道焼津市長

第五福竜丸平和協会の皆様が、ビキニ事件の六〇年目に「記念のつどい」を開催されるにあたり、ごあいさつを申します。

まず、開館以来、第五福竜丸をはじめとする貴重な資料

を訴え続けている、公益財団法人第五福竜丸平和協会の皆様に、心から敬意を表します。

さて、昭和二九年三月一日、マーシャル諸島ビキニ環礁付近で操業していた焼津港所属の第五福竜丸が、アメリカ合衆国の水爆実験に遭遇し被災してから本年で六〇年となります。

第五福竜丸が、太平洋マーシャル諸島のビキニ環礁で行われた水爆実験により被害ばかり、平成二六年（二〇一四年）三月一日に六〇年を迎えた。

北原恒一東京都東部公園 緑地事務所長

第五福竜丸が、太平洋マ

シヤル諸島のビキニ環礁で行

われた水爆実験により被害ば

くし、平成二六年（二〇一四

年）三月一日に六〇年を迎

ました。

この船は、戦後間もない昭

和二二年（一九四七年）建造

されたカツオ漁船であり第七

事代丸として進水しました

す。この集会は、昭和六〇年から開催し、本年で三〇回目を迎えようとしております。市民の足跡として、また核兵器廃絶の決意を新たにするために、石碑を建立いたします。

「第五福竜丸事件6・30市民集会」を毎年開催しております。

昭和二九年（一九五四年）三月一日、「第五福竜丸」は太平洋上の水爆実験による被害を受け、帰国後に改造され東京水産大学の練習船として使用されました。昭和四二年（一九六七年）には廃船となり、当時、東京都のゴミの埋め立て処分場であった夢の島に放置されておりました。

その後、第五福竜丸を保存すべきとの機運が高まり、東京都は「第五福竜丸展示館」の設置を決め、昭和五一年（一九七六年）、新たに整備した都立夢の島公園内に開館しました。

第五福竜丸平和協会（現公益財団法人）には開館以来、展示館の管理を担っていただきおり、来館した小・中学生、高校生などをはじめ広く皆様へのガイド、情報提供等に努めているところです。

こうした状況の中、私たちが、その後マグロ漁船として改造され、遠く赤道海域まで進出し遠洋漁業に携わっておりました。

昭和二九年（一九五四年）三月一日、「第五福竜丸」は太平洋上の水爆実験による被害を受け、帰国後に改造され東京水産大学の練習船として使用されました。昭和四二年（一九六七年）には廃船となり、当時、東京都のゴミの埋め立て処分場であった夢の島に放置されておりました。

その後、第五福竜丸を保存すべきとの機運が高まり、東京都は「第五福竜丸展示館」の設置を決め、昭和五一年（一九七六年）、新たに整備した都立夢の島公園内に開館しました。

第五福竜丸平和協会（現公益財団法人）には開館以来、展示館の管理を担っていただきおり、来館した小・中学生、高校生などをはじめ広く皆様へのガイド、情報提供等に努めているところです。

この船は、戦後間もない昭和二二年（一九四七年）建造されたカツオ漁船であり第七

事代丸として進水しました

一月には、通算の来館者が

（8めんにつづく）

(7めんからつづく)
五〇〇万人を超えたました。これからも、当時、遠洋漁業に出ていた木造船の実物と、財団が収集した貴重な関係資料の公開等により被ばくの事実を広く人々に知つていただくとともに、原水爆による惨禍が再び起こらないようにとの願いをこめて、今後とも展示館の適切な運営を継続してまいります。



大石さんはマーシャルで3月1日を迎える記念式典に参加し訴えた

の見えない、消えない、汚い放射能を大気圏や地球上に撒き散らしてから六〇年になります。当時の政府はアメリカの水爆開発に賛成し、協力する数の反対を押し切つて政治決着を結び、ビキニ事件を握りました。国会で発言し、国民大多数が再び起こらないようにとの願いをこめて、今後とも展示館の適切な運営を継続してまいります。

ヒバクを許さない

大石又七

ビキニ環礁でアメリカ軍が巨大な水爆実験を行い、大量

弾となつて出来上がり、今なお人類を脅かしています。

日本の友へ リミヨ・エボン

この時期、外務省が水面下で行つていたアメリカとの重要な取引、このことが語られていないうに思います。窮地に立たされたアメリカを擁護し、早急に原発の技術と原子炉の供与を認めてほしいそんな思いがあつたと思ひます。そのため膨大なビキニ事件の賠償金をわざかな見舞金でいい、核実験にも協力、国際法にも違反しない、といつて全面協力しました。

今年は「プラボー」実験から六〇年たります。プラボーという言葉は、何かがうまくいったとき、何かが成功したときには褒め称えるときに使う言葉です。しかし実際のプラ

ボーは、ロングラップ、ウツツブしました。当然被曝した漁師たちも一人も認めていません。その結果世界はどうなりましたか。

数千発の強力な核弾頭が実

(第五福竜丸元乗組員・ビキニ水爆実験被爆者)

や風に乗つて降り注いでいます。そのためか、一九六〇年頃からガン患者が急増し始め、二人に一人がガンにかかり、三人に一人が死ぬと言わ

れているかもしません。眼に見えない内部被曝は貴方をすでに被爆者としているかもしれません。



△60年メツセージ△

伝えつづける母親大会
木村康子

日本母親大会も今年は六〇回目の大会を横浜で開催します。

母親大会はビキニ事件に端

を発し、「原水爆禁止・核戦争阻止」、そして「生命（いのち）を生みだす母親は、命を育て、生命を守ることをのぞみます」をスローガンにかかげ、毎年、四七都道府県大会をひらき、暮らし、いのち、平和の草の根の願い、運動を持ち寄つて「日本母親大会」を開いてきました。

ビキニで被爆した「第五福竜丸」は、戦争と平和、核兵器廃絶はもちろんのこと、自然環境、地球の未来にいたるまで、すべての運動を具体的に語り伝えることのできる大切なもののです。私たちがいま抱えている病気は、遺伝し、くるまでには、長い時間がかかることを私たちは知っています。なかには五〇〇年ものあいだ、留まり続けるものもあるのです。私たちがいま抱えている病気は、遺伝し、孫子にまで伝え、永遠に大切に守つていきましょう。

「広島・長崎」の被爆とともに、孫子にまで伝え、永遠に大切に守つていきましょう。

(元日本母親大会代表委員)
(9めん下につづく)

者リミヨ・エボンさんが語り手となつて、マーシャルの核被害と島の人びとの思いを伝える羽生田有紀さん・文『ふるさとあちゃんとビバクの島』（子どもの未来社）は、「ふるさとはポイズンの島」（旬報

ビキニデーに前後して、ビキニ事件に関する新刊が出版されています。

協会専門委員で元焼津市史編纂委員の枝村三郎さんは『水爆と第五福竜丸』（自費出版）を上梓しました。『平和をもたらした龍』『原水爆と原水爆禁止運動六〇年』に次ぐ研究書で、静岡の被害漁船、原水爆禁止署名の取り組みなどを紹介しています。

ビキニ水爆被災事件静岡県調査研究会編『ビキニ水爆被災事件の真相』（第五福竜丸ものがたり）（かもがわ出版）は、各氏と、安田和也協会事務局長が執筆に加わりと中学生がわかるようにと平易な表現で工夫されており、優れた入門

関連書籍 続々刊行中!

充実のミュージアム
ショップに



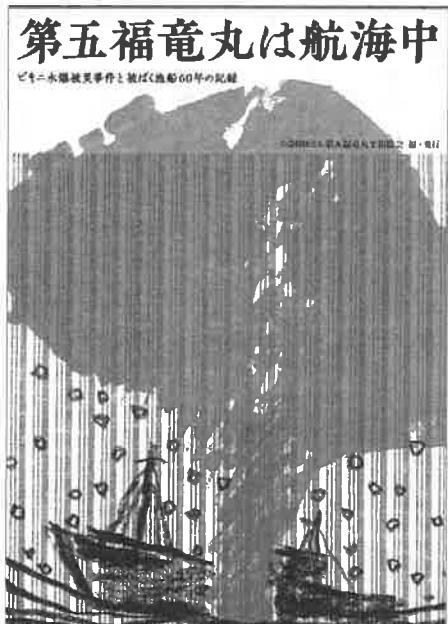
書となっています。

またロンググラップの被ばく

者リミヨ・エボンさんが語り手となつて、マーシャルの核被害と島の人びとの思いを伝える羽生田有紀さん・文『ふるさとあちゃんとビバクの島』（子どもの未来社）は、「ふるさとはポイズンの島」（旬報

記念出版

「第五福竜丸は航海中」



第五福竜丸は航海中

定価 2000円 B5判カラー 216頁

発売・現代企画室

ビキニ水爆被災事件・第五福竜丸被ばく60年記念事業出版で新しい本が出版されました。サブタイトルに「ビキニ水爆被災事件と被ばく漁船60年の記録」とあるように、ビキニ事件の記録の集大成です。第五福竜丸をはじめとする漁船の被害、科学調査船俊鶴丸、核実験場となったマーシャルの被害、原水爆禁止運動の動き、第五福竜丸の保存と木造船の大補修の記録、「ビキニ事件」から生まれたアート作品などを、所蔵資料の写

社)に続き、フォトジャーナリスト島田興生さんの写真で綴る写真絵本です。

近年発行された協会専門委員の中原聖乃さんの『放射能難民から生活圏再生へ』(法律文化社) 中原聖乃・竹峰誠一郎『核時代のマーシャル諸島』(凱風社) 等、マーシャルに関する研究書も揃いました。

*紹介した本は、展示館ミュージアムショップで購入できます。

子どもたちの発見を
長谷川潮

長谷川潮

わたしは児童向きのノンフ

イクション『死の海をゆく』第五福竜丸物語(文研出版)を一九八四年に出版した。当

時、第五福竜丸の被曝を扱った児童文学作品は二、三あったが、被曝の現象だけしか書いていなかった。それでは事件の本質が伝わらないと感じて、わたしは歴史的文脈の中で捉えるという方法で書いた。つまり、歴史的事件のひとつとして子どもに発見してもらいたかったのだ。

福島第一原発の事故は進行中だが、広島と長崎の原爆、そして第五福竜丸の被曝は、現在および未来の子どもにとっては発見すべき事柄である。発見することによってこそ、問題の本質が子ども自身のものになる。その発見の手助けをするのは、なにも第五福竜丸展示館だけの役割ではないだろう。

(児童文学作家)



マー・シャル行2014

想い新たなヒバク60年

島田興生

その1

洋上のビキニ・デー

昨年一〇月、大型客船「ぱしふいっくびいなす」(27000トン)を運行している日本クルーズ客船(株)の橋口さんから第五福竜丸展示館の安田さんに「二〇一四年一月にマー・シャル、タヒチ、ハワイをたどる太平洋巡航ツアーアを企画している。一

月一九日頃にはビキニ環礁に到着するので、それまでの船内でビキニ核実験と島民の現状、第五福竜丸の話を二、三回してくれる人を紹介して欲しい」という依頼が入った。

私が適任かどうか自信はない」かたが、橋口さんが「実験六〇年目の節目の年で、福島が近づいて来られ、石川さんが近づいて来られ、石川さんは「私は酒匂の元乗組員だった。標的艦になつた酒匂にお祈りを捧げたい」と思つた。船に乗つた」と言つられた。

標的艦になつた 軽巡洋艦「酒匂」の最後

観光だけでなくビキニへの訪問目的を表していることに共感して、お引き受けすることにした。

二〇一四年一月一五日と一七日、船内のメインラウンジで二回に分けスライド・トークを行つた。何しろ船内では様々なイベントやカルチャーチームが時間刻みで行われていて、午前九時という早朝の時間帯、さらに年齢が多く、どれだけの方に参加して貰える



船内でスライド・トーク「ビキニ水爆実験と島民のいま」をする島田さん

私は話の中で、ビキニで行われた最初の核実験で米独立の五七隻の軍艦、日本からは戦艦「長門」と軽巡洋艦「酒匂（さかわ）」が標的艦になりました。話が終わると石川兵衛（ひょうえ）さんと奥さんが近づいて来られ、石川さんは「私は酒匂の元乗組員だった。標的艦になつた酒匂にお祈りを捧げたい」と思つた。船に乗つた」と言つられた。

一九四六年七月一日、B29から投下された原爆は海上に配置された五七隻の標的艦の頭上で炸裂。四四年一一月に竣工した軽巡洋艦「酒匂」（6700トン）は、レーダーを備えた日本海軍の最新鋭艦だった。第一回の原爆で大破した後、二十数日間浮いていたが、転覆し海底に沈んだ。

奈良県立医科大学学長を務めた石川兵衛さん（87歳）は、四五五年三月、海軍兵学校を卒業と同時に酒匂に赴任。五月には酒匂は機雷原となつた関門海峡を突破、福井県小浜湾に避難し、九死に一生を得る。実戦に投入されることなく無傷のまま敗戦を迎えた酒匂はその後米軍に接收され、ビキニに回航。石川さんは「酒匂」が核実験の標的艦になり、ビキニの海に沈んだことを知つて、いつか祈りを捧げたいと考えたがこれまで訪問する機会がなかつた。

一月一九日午後、実験場になつたビキニ環礁内の「立入

り制限海域」から八キロほど離れた島の沖合に錨を下ろした船の上で、船長や数十人の乗客が見守る中、石川夫妻によつてささやかな祈念セレモニーが行われ、穏やかな海面に菊の花束と日本酒が投じられた。

式後、石川さんは「これでお別れできました」と語つた。しかし、石川さんは「酒匂」を退艦後、広島から三〇キロはなれた大竹の海軍潜水学校で広島原爆の閃光と爆風に遭遇するという体験をしたこと

も話してくれた。

当初予定していたビキニ本島への乗客の上陸は実施されなかつた。もし実施できれば、今まで帰島していたビキニ島民が今なお残る核実験観測壕跡だけではなく、七二年から七八年まで帰島していたビキニ島民の廃屋を見ることが出来、いままお帰島出来ない島民の悲痛な現実に触れることができただのにと、ちょっと残念でならない。（次号に続く）

（しまだこうせい フォト：ジャーナリスト）

か自信がなかつた。しかし、毎回一二〇人以上の方が集まり、静かに話に耳を傾けて下さつた。何人かの乗客から質問の手紙も頂いた。

ビキニ核実験跡に花束を捧げた
石川夫妻





日本建築家協会より

展示館に「25年賞」

第五福竜丸展示館は、このたび日本建築家協会が主催する「JIA25年賞」を受賞しました。

日本建築家協会は、建築士、設計監理に携わる専門家の公益法人で、建築物の向上と建築文化の創造・発展に貢献することを目的として活動しています（初代会長・丹下健三、現会長・芦原太郎）。

展示館に贈られるJIA賞

25年賞とは、「25年以上に亘って長く地域の環境に貢献し、風雪に耐えて美しく維持され、社会に対して建築の意義を語りかけてきた建築物」

に対して授与されるもので、あわせて「その建築物を美しく育て上げることに寄与した人々（建築家、施工者、建築主また維持管理に携わった者）」を顕彰することにより、

「多様化する価値基準の中で、建築が果たす役割をあらためて確認するとともに、次世代につながる建築物のあり方を提示することを目的とする」としています。

としています。

25年賞は今回で一三回目、世田谷美術館や有楽町マリオングなど一六棟の建築物が選ばれました。

審査委員の平倉章二氏によると展示館に対する講評は、「シエル構造による一枚のコールテン鋼の壁面で柔らかく包みこむ、シンプルな建築は、時間の経過と共に、更に強固な存在感を示している。『第五福竜丸』を契機として核廃絶、平和への願いを多くの人々に深く語りかけ、次の時代につなげていく為にふさわしい、

寡黙で、素形の様な場を創りだしている。素材を含めた計画意図の明確さは、これまで方々の情熱に支えられ優れた方々の運営上の工夫や関係する『時間の計画』である事を示唆しているように思える。今後、この場の活用の仕方や、夢の島の環境変化、木造船保存の技術的課題等への対応が引き続き求められている事に关心を持ちたい」と述べています。

授賞式は5月23日。設置者である東京都と設計者の杉重彦氏（第五福竜丸平和協会顧問）、施工者の大都建設そして管理者の第五福竜丸平和協会の四者に授与されます。

建築家の杉重彦氏は「放置されていた福竜丸保存への運動、平和への願い、原爆廃止への運動と、多くの方々の強い意思、多大な努力があり展示館は建設された」と語ります（「福竜丸だより」2013.5.37.5号）。

展示館は開館から三八年を経て経年劣化もすすんでおり、今後船体等の保存とも関連して補修の対策が求められます。

市民講座、4月開講

—いま水爆の時代を問う
核と向き合い明日へ—

(1) 「ビキニ事件とマグロ～海
洋汚染を考える」水口憲哉
(資源維持研究所、東京水
産大学名誉教授)

(2) 「放射能雨と地球環境」青
山道夫（福島大学放射能研
究所教授、元気象研究所地
球化学部主任研究員）

ビキニ事件当時、直接かかわられた研究者と海洋、環境の放射能汚染を究明する研究者による報告から、今日の問題までを考えあう企画です。

参加費は資料代500円。定員百名のため予約をおねがいします。

第二回以降は、六月一四日（土）、七月一九日（日）、九月六日（土）で、ビキニ事件と米国の政策、日米関係への影響、日本経済、繰り返された水爆実験と世界規模の放射能降下物の問題、アメリカの核実験推進のための国民党伝、科学者、被ばく者の取り組みなどについて報告を予定しています。

五四年当時に死の灰の分析にあたった科学者・池田長生さんと俊鶴丸乗船の研究者・岡野真治さんの証言。

報告は以下の二人です。

■ 参加申し込みは、Fax 03-3521-2900
fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp
問合せ電話03-3521-8494

I N F O R M A T I O N

60周年記念シンポ参加の核軍縮研究者など来館

3月17日午後、明治学院大学国際平和研究所主催の国際シンポジウム「ビキニ事件再訪—核廃絶に向けて、今ふり返るべきこと」に参加した報告者3名と同研究所の高原孝生教授（協会評議員）らが展示館を訪れ、熱心に見学しました。

一行はアメリカのローレンス・ウッドタナーさん（ニューヨーク州立大学名誉教授）、サンディ・ブッチャースターさん（パグウォッシュ会議事務局長）、李俊揆さん（イジュンキ、韓国・北韓大学院大学研究員）などです。



ビキニ60年関連報道

節目の年ということで、第五福竜丸とビキニ事件がメディアで多数取り上げられました。その一部を紹介します。

◇朝日新聞 シリーズ「核といのちを考える ビキニ60年」（全5回）
ほか静岡版では特集記事

◇毎日新聞 「'14冬ヒバクシャ」に
大石又七さん、「米、日本政府に圧力 米公文書」（3月2日付）

◇読売新聞 連載「ビキニ事件60年」
(全3回)、静岡版で連載「語り継ぐ福竜丸被曝60年」6回ほか

◇共同通信 連載「いま伝えるビキニ被ばく60年」（全6回）神戸新聞・愛媛新聞・長崎新聞等掲載。特集「ビキニ事件60年—ロンゲラップの人々」（静岡新聞等掲載）特集「海洋汚染地図」（埼玉新聞等掲載）ほかマーシャルでの記念式典など配信

◇中日新聞 連載「終わらせない ビ

キニ被ばく60年」5回

◇長崎新聞 連載「ビキニを見つめて被ばく60年の決意」3回

◇静岡新聞、中国新聞、しんぶん赤旗なども特集の連載を組みました。

このほか朝日・毎日・中日・西日本・東京新聞が3月1日の社説で、静岡・中国新聞などがコラムで取り上げました。北海道新聞、中国新聞、琉球新報などにも関連記事が報道されました。

雑誌では「週刊女性」「AERA」が築地に埋められたマグロについて特集を組みました。

またTBS「報道特集」、NHKニュース、テレビ報道、インターネットでの動画配信などもあり、フェイスブック、ツイッターでも多数話題に取り上げられました。

ご寄贈ありがとうございました

◇秋田大学阿部亨さんより「ビキニ灰」をご寄贈いただきました。東大木村研究室で死の灰の分析にあたった池田長生さんが保管されていた試料です。

◇岩手県・吉田栄一さんより、岩手県の「被災船」についての調査報告をいただきました。当時の新聞報道等をもとに宮古・釜石の被災船を調べ、関係者にあたり、聞き取りをすすめています。

*太平洋での核実験から半世紀以上が経過し、被害の実態について記憶を持つ方や関係者も少なくなるなかで、聞き取り調査は重要です。ぜひ地域での取り組み、情報をお知らせください。

「龍」の字が大好きになった小一の孫

昨年の夏休みのことです。たまたま我が家に泊まりに来ていた孫の悠良を連れ、ガイドのボランティアとして展示館に向かいました。着くなり「紙ちょうどい」と言って、悠良がえんぴつで第五福竜丸の絵を描いてきました。B4の紙に大きく描けていたので、来館されていた大石又七さんに見てもらったところ「この船には第五福竜丸という名前があるんだよ。その名前が書いてあると、もっといい絵になるよ」と言われました。

「わかった。おばあちゃん教えて」ということで、家に帰ってから漢字の練習。「五」は真っ先に書けたものの、「龍」の字が書けるまでには何回練習したことでしょう。6年生でも習わない漢字だということも悠良のヤル気を起こさせたようです。そして、とうとう見ないでも書けるようになりました。そこで、夏休みの宿題の絵日記を第五福竜丸と書いて完成させました。

それ以来、悠良はことあるごとに「龍」の字を書いて見せ、悦に入っています。大好きになった「龍」はもちろん、他の漢字にも興味が向くようになったとのことです。

大石さんのアドバイスから、漢字に目覚めた孫でした。

（鈴木京子・ボランティアの会）



お花見平和のつどい 2014 …ビキニ被ばくから60年をむかえて…

第五福竜丸エンジンの展示館前ひろばへの設置にとりくんだ被爆者はじめ市民団体が記念植樹の桜の木の元に核廃絶、平和をねがいつどいます。

■主な内容 第五福竜丸被ばく60年の報告／生協の平和のとりくみ／平和ミュージック／折り鶴コーナーなど

*4月5日（土）11:00—14:30

*第五福竜丸展示館&ひろば どなたでも参加できます！